

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の 3年度目)

1. 研究課題

(和文) グローバル化する思想・宗教の重層的接触と人文学の可能性

(英文) The Multilayered Contacts among Globalizing Intellectual Thought and Religions with regard to the Possibility of the Humanities

2. 研究代表者

(氏名) 奥山直司 (高野山大学文学部・教授)

3. 研究期間

平成 22年 9月 から 平成 25年 3月 まで

4. 研究目的 (400字程度)

グローバル化が進行する現代社会における思想・宗教の流通と消費の問題を、複数文化の重層的接触という観点でとらえ、現代のみならず、過去150年程度のスパンの中でこれを分析、考察することを目的とする。そのための柱として、宗教と進化論(ダーウィニズム)をテーマに据え、それらの伝播の諸相を人文学の諸分野にわたって検討する。このうち宗教については、京都大学人文科学研究所人文学国際研究センターの基幹プロジェクトとして進められてきた「複数文化接触領域(コンタクト・ゾーン)の人文学」における問題意識を継承しつつ、仏教、キリスト教、イスラーム教等の各地への伝播過程や変容過程を複数文化の接触としてとらえ、論じてゆく。また進化論については、これを近代思想の一つと見なし、アジア各地へのその伝播を伝統社会と近代思想との接触の事例と位置付け、専ら人文学的見地から、進化論と宗教との関係、進化論の社会・文化への影響などについて検討を加える。

5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

本年度は、研究会を6回(第9回から第14回まで)、公開講演会を1回実施した。このうち公開講演会は、招聘外国人研究者、ルチア・ドルチェ氏(ロンドン大学東洋アフリカ学院准教授)によるものであった。その概要は7に記す通り。これは本研究班が掲げるテーマである思想・宗教のグローバリゼーションという問題を掘り下げる試みの一部であった。他方、研究会は、毎回1~2名の研究発表を基本としたが、第13回研究会は、四国八十八カ所霊場札所2カ所を会場とする2泊3日の研究合宿として実施され、「聖地と巡礼」をテーマに講演を1つ、研究発表を4つ行った。また第14回研究会は、上記のドルチェ氏他4人のディスカッションによる公開のパネルディスカッション形式で行われた。

6. 研究成果の概要 (400字程度)

本年度は3年計画の3年度目に当たるため、未発表の班員に可能な限り発表の機会を提供すると同時に、外部から研究者を招き、新たな視点の導入を図った。すなわち、阿満道尋(アラスカ大学)、ルチア・ドルチェ(ロンドン大学)、滝澤克彦(東北大学)の諸氏に研究発表あ

るいは講演を依頼した。その結果、明治仏教と生理心理学、近代中国における進化論批判、第二次大戦前の北アメリカにおける日本仏教の近代化、進化論における宗教進化の位置とその影響、英領インドにおける岡倉天心とインド知識人との交流、漢訳仏典の中国化の問題、巡礼と地域社会、カンボジア村落部における内戦とポル・ポト時代の死者をめぐる人類学的考察、19世紀英国における日本仏教のイメージなど多彩なトピックが取り上げられ、それぞれに思想・宗教のグローバリゼーション、または複数文化の接触という観点から分析、検討が加えられた。

7. 共同研究会に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）

○公開講演会「アイコン・焼香・弘法大師－19世紀英国における日本仏教のイメージ」

日時：2013年3月8日（金）18時～20時

場所：人文科学研究所本館大会議室

講師：ルチア・ドルチェ

○公開パネルディスカッション「日本中世の密教」

日時：2013年3月11日（月）15時～17時

場所：高野山大学本館第2会議室

ディスカッサント：ルチア・ドルチェ、日野西眞定、山陰加春夫、乾仁志、佐藤隆彦

コーディネーター：奥山直司

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区 分	機関数	受入人数		延べ人数			
		外国人	大学院生	外国人	大学院生		
学内（法人内）	3	10	0	2	45	0	8
国立大学	5	6	0	1	20	0	3
公立大学	0	0	0	0	0	0	0
私立大学	7	13	2	1	40	5	3
大学共同利用機関法人	1	1	0	0	1	0	0
独立行政法人等公的研究機関	1	1	0	0	5	0	0
民間機関	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	2	2	1	0	8	7	0
その他	1	1	0	0	1	0	0
計	20	34	3	4	120	12	14

研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

(例) ・ 1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

(参加研究者がファーストオーサーであるものを対象)

論文数	20	
うち国際学術誌に掲載された論文数	(12)	(0)

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

(注) 分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で論文数を記載。

役割		
論文数		
うち国際学術誌に掲載された論文数	()	()

※下段の () 内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載。

※ 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なものを以下に記載。

※ 拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載上で、掲載雑誌名等を記載。

拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由	人文科学分野においてはインパクトファクターそのものの定義が困難であるが、学会誌ないし商業誌として信頼性と多くの読者を持つことで高い評価を得ているものに限定した。		
掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
Cahiers d' Extrême-Asie 20(2011)	1	Buddhist Theories of Bodhisattva Practice as Adopted by Daoists	Funayama Toru